

四半期報告書

(第68期第3四半期)

自 平成24年10月1日

至 平成24年12月31日

マナック株式会社

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
2 その他	13
第二部 提出会社の保証会社等の情報	14

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第68期第3四半期（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）
【会社名】	マナック株式会社
【英訳名】	MANAC INCORPORATED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 杉之原 祥二
【本店の所在の場所】	広島県福山市箕沖町92番地
【電話番号】	084（954）3330（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 杉之原 誠
【最寄りの連絡場所】	広島県福山市箕沖町92番地
【電話番号】	084（954）3330（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 杉之原 誠
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第3四半期 連結累計期間	第68期 第3四半期 連結累計期間	第67期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高（千円）	6,832,296	6,870,824	9,366,557
経常利益（千円）	185,271	211,432	369,757
四半期（当期）純利益（千円）	17,162	109,965	109,549
四半期包括利益又は包括利益 （千円）	△39,344	140,847	176,461
純資産額（千円）	8,366,320	8,662,605	8,582,079
総資産額（千円）	12,222,535	11,902,377	12,386,262
1株当たり四半期（当期）純利益金額 （円）	2.14	13.69	13.63
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	68.4	72.8	69.3

回次	第67期 第3四半期 連結会計期間	第68期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額（円）	6.97	10.33

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前連結事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の日本経済は、欧州の債務問題や中国の経済成長の減速などを背景に景気回復の動きがみられず、また長引く円高や近隣諸国との関係悪化などから輸出や生産が減少し、内需にも明るさがみえない中、依然として厳しい状況が続いております。

このような情勢のもとで、当社グループは新しいマーケットの開拓とニーズの発掘に取り組んでまいりましたが、業績は、営業利益で、高付加価値製品の伸び悩みにより、前年同四半期比で減益となりました。

経常利益及び四半期純利益は、前年同四半期で計上した投資有価証券評価損及び退職給付制度終了損等が減少したことから、増益となりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は6,870百万円（前年同四半期比+38百万円、0.6%増）となり、営業利益は39百万円（同△82百万円、67.9%減）、経常利益は211百万円（同+26百万円、14.1%増）、四半期純利益は109百万円（同+92百万円、540.7%増）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

①ファインケミカル事業

ファインケミカル事業につきましては、電子材料や機能材料分野において市場が縮小し厳しい環境となりましたが、医薬関連製品は需要が安定しているために経済環境に左右されることなく堅調に推移いたしました。

その結果、売上高は3,710百万円（前年同四半期比+168百万円、4.7%増）、セグメント利益は295百万円（同△17百万円、5.6%減）となりました。

②難燃剤事業

難燃剤事業につきましては、情報端末や家電製品、IT産業関連製品の高機能プラスチックに使用される分野で需要が縮小いたしました。

その結果、売上高は2,260百万円（同△140百万円、5.8%減）、セグメント利益は212百万円（同△56百万円、21.1%減）となりました。

③ヘルスサポート事業

ヘルスサポート事業につきましては、人工透析薬剤として使用される原料はほとんどが国内販売のため、医薬関連製品同様に経済環境の影響を受けることなく需要は堅調に推移いたしました。

その結果、売上高は899百万円（同+10百万円、1.2%増）、セグメント利益は104百万円（同+1百万円、1.5%増）となりました。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて483百万円減少し、11,902百万円となりました。これは主に、現金及び預金や金銭の信託等の流動資産が減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて564百万円減少し、3,239百万円となりました。これは主に、その他流動負債や長期借入金、未払法人税等が減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて80百万円増加し、8,662百万円となりました。これは主に、利益剰余金や為替換算調整勘定等が増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、274百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,200,000
計	23,200,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,625,000	8,625,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	8,625,000	8,625,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	—	8,625,000	—	1,757,500	—	1,947,850

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 590,500	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 8,011,800	80,118	—
単元未満株式	普通株式 22,700	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	8,625,000	—	—
総株主の議決権	—	80,118	—

② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
マナック株式会社	広島県福山市箕沖町92番地	590,500	—	590,500	6.85
計	—	590,500	—	590,500	6.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,259,782	1,060,272
受取手形及び売掛金	3,051,503	2,950,825
有価証券	160,331	270,853
金銭の信託	1,200,000	900,000
商品及び製品	1,028,726	1,076,926
仕掛品	545,508	481,933
原材料及び貯蔵品	387,438	430,993
繰延税金資産	121,463	115,155
その他	127,376	131,154
貸倒引当金	△2,572	△2,527
流動資産合計	7,879,558	7,415,587
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,098,837	1,069,644
機械装置及び運搬具（純額）	608,161	614,003
土地	1,146,675	1,146,675
建設仮勘定	50,724	38,372
その他（純額）	168,909	181,292
有形固定資産合計	3,073,307	3,049,988
無形固定資産	3,504	2,865
投資その他の資産		
投資有価証券	1,030,804	1,058,901
関係会社長期貸付金	109,950	109,500
繰延税金資産	84,461	55,588
その他	205,275	210,546
貸倒引当金	△600	△600
投資その他の資産合計	1,429,891	1,433,935
固定資産合計	4,506,703	4,486,789
資産合計	12,386,262	11,902,377

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,235,465	1,104,652
短期借入金	946,669	1,046,068
未払法人税等	96,224	9,563
賞与引当金	140,841	68,383
その他	665,658	482,115
流動負債合計	3,084,860	2,710,783
固定負債		
長期借入金	333,609	229,756
役員退職慰労引当金	54,729	54,729
負ののれん	81,084	50,677
その他	249,900	193,826
固定負債合計	719,323	528,989
負債合計	3,804,183	3,239,772
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,757,500	1,757,500
資本剰余金	1,947,850	1,947,850
利益剰余金	5,144,104	5,193,811
自己株式	△243,622	△243,685
株主資本合計	8,605,831	8,655,475
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,621	12,475
繰延ヘッジ損益	8,695	7,532
為替換算調整勘定	△48,069	△12,877
その他の包括利益累計額合計	△23,752	7,129
純資産合計	8,582,079	8,662,605
負債純資産合計	12,386,262	11,902,377

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	6,832,296	6,870,824
売上原価	5,523,922	5,621,290
売上総利益	1,308,374	1,249,534
販売費及び一般管理費	1,186,393	1,210,346
営業利益	121,981	39,187
営業外収益		
受取利息	5,779	4,931
受取配当金	14,056	24,063
為替差益	—	32,209
負ののれん償却額	30,406	30,406
受取ロイヤリティー	30,309	30,599
受取保険料	—	31,000
その他	17,153	35,285
営業外収益合計	97,705	188,496
営業外費用		
支払利息	17,939	15,418
為替差損	6,109	—
デリバティブ評価損	7,343	220
その他	3,021	612
営業外費用合計	34,414	16,251
経常利益	185,271	211,432
特別利益		
固定資産売却益	238	222
投資有価証券売却益	14	6,000
特別利益合計	252	6,222
特別損失		
固定資産除却損	2,982	7,543
投資有価証券売却損	769	3,998
投資有価証券評価損	99,885	2,040
退職給付制度終了損	50,396	—
特別損失合計	154,033	13,581
税金等調整前四半期純利益	31,491	204,072
法人税、住民税及び事業税	27,718	56,527
法人税等調整額	△13,390	37,579
法人税等合計	14,328	94,107
四半期純利益	17,162	109,965

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
四半期純利益	17,162	109,965
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△41,455	△3,145
繰延ヘッジ損益	—	△1,163
為替換算調整勘定	△15,051	35,191
その他の包括利益合計	△56,507	30,882
四半期包括利益	△39,344	140,847
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△39,344	140,847
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及び負ののれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	198,212千円	216,433千円
負ののれん償却額	30,406	30,406

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	60,260	7.5	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年11月2日 取締役会	普通株式	20,086	2.5	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	40,172	5.0	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	20,086	2.5	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	ファインケミカル事業	難燃剤事業	ヘルスサポート事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	3,542,628	2,400,406	889,261	6,832,296
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	3,542,628	2,400,406	889,261	6,832,296
セグメント利益	313,465	269,181	103,359	686,006

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	686,006
全社費用（注）	△564,025
四半期連結損益計算書の営業利益	121,981

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用等であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	ファインケミカル事業	難燃剤事業	ヘルスサポート事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	3,710,660	2,260,251	899,912	6,870,824
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	3,710,660	2,260,251	899,912	6,870,824
セグメント利益	295,978	212,288	104,938	613,205

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	613,205
全社費用（注）	△574,017
四半期連結損益計算書の営業利益	39,187

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用等であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	2 円14 銭	13 円69 銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	17,162	109,965
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	17,162	109,965
普通株式の期中平均株式数 (株)	8,034,686	8,034,435

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成24年11月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………20,086千円

(ロ) 1株当たりの金額……………2.5円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成24年12月5日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

マナック株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

世良 敏昭

印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

中原 晃生

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているマナック株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、マナック株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。